

第1章 荒尾市の観光振興の基本方針

1. 荒尾市の観光資源

本計画を策定するにあたり、学識経験者や観光関連事業者等が中心となった策定委員会、市内観光従事者が中心となったワークショップ及び策定会議（庁内検討会）において、荒尾市の現状をはじめ、荒尾市の資源について活発な議論が行われました。

その議論を経て、観光資源として抽出されたものから、資源のカテゴリー分けを行いました。

資源	ゾーン	魅力
小岱山、小代焼、トキワマンサク 他	小岱山ゾーン	山の魅力
梨、梨の花、ミカン、コスモス ハーブ 他	フルーツゾーン	里の魅力
万田坑（文化遺産、炭坑遺跡） 宮崎兄弟の生家 他	文化遺産ゾーン	街の魅力
グリーンランド、ウルトラマンランド 温泉、宿泊施設 他	グリーンランド ゾーン	
有明海、干潟、渡り鳥 海の幸（マジック、クチゾコ）他	有明海ゾーン	海の魅力

資源をゾーンごとに分けると、それぞれの地域の魅力が見えてきます。今まではグリーンランドという九州有数の集客施設を有することで、身近な地域資源を観光資源として捉える認識が不足していましたが、改めて地域を見つめなおすことで荒尾市の街の魅力や、山や里、海などの豊かな資源に気づくことができます。これらの点在している魅力をつなぐことで新たな荒尾の価値を創出していきます。

2. 観光振興における基本方針

(1) ビジョン

荒尾市が将来どのような地域を目指すのか、これを将来像としてしっかり構築しておかなければなりません。将来像は行動力の源泉になります。

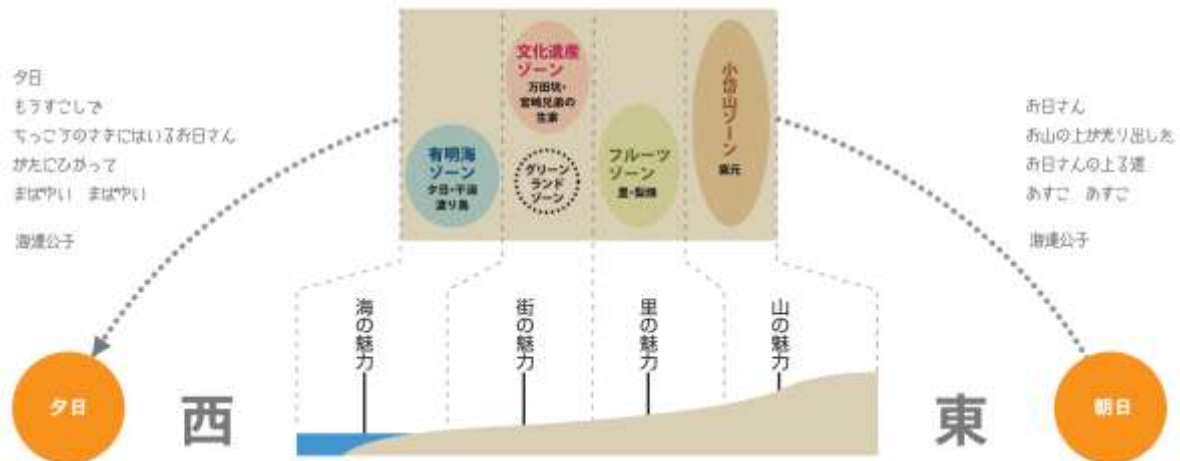
荒尾市観光振興計画のビジョン（将来像）

幸せを感じる 感動が生まれる 荒尾

長い年月をかけて受け継がれてきた自然や歴史・文化、風景、暮らしの営み。
今、私たちに必要なことは、荒尾にあるものの価値に気づくことです。
ひとりひとりが荒尾の価値に気づき、響き、つながることで新たな魅力が生まれ、
「幸せを感じる 感動が生まれる 荒尾」を築き、次世代へとつないでいきます。

幸せを感じる 感動が生まれる 荒尾

「荒尾の光となる、素晴らしい人や、自然の営みに出会う」という原点を外さない観光振興の在り方。



心の目で地域を見つめれば、山や里を彩る四季の変化、有明海と夕日が醸し出す風景、波り鳥、暮らしの営み、歴史の物語・・・
私たちのふるさと荒尾は、こんなにも美しいものに囲まれている。

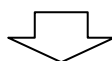
**いま、私たちに必要なこと、
それは荒尾の宝に気づき、その価値を共有することである。**

(2) コンセプト

ビジョンを実現するための戦略構築の核となるものが「コンセプト」です。観光による交流を促進するための指標といえるものです。

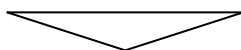
荒尾市観光振興計画のコンセプト

源を見つめなおす



内（市民）への効果

荒尾の「人々の思い」「資源の物語」「営みの文化」など、今の荒尾にあるヒト・コト・モノの源を見つめなおし、荒尾という地域を形成している核となる物語を知ることで、市民自らが荒尾市への誇りを持ち、荒尾市の魅力を発信します。



外（マーケット・来訪者）に対して

市民自らが誇りを持ち、熱く魅力を語り発信することで、地域に対する共感が生まれ、強い来訪のきっかけにつながります。

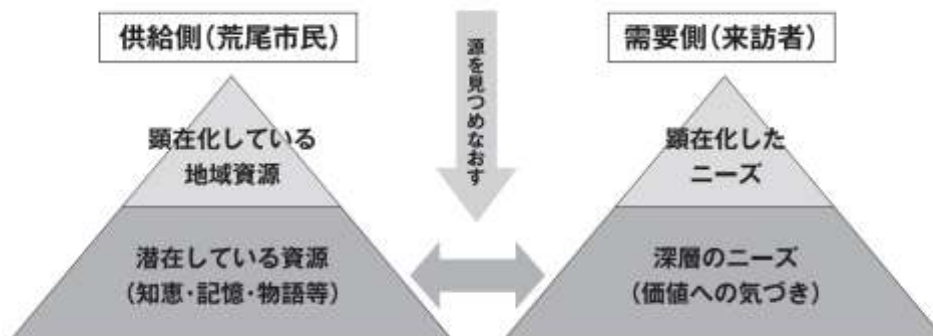
**これらの一連のつながりが、荒尾の魅力づくりになり、
荒尾市固有の観光地形成につながっていきます。**

【なぜ「源を見つめなおす」ということが大切なのか】

「己の立てるところを深く掘れ そこには必ず泉あらん」(高山樗牛^{たかやまちぎゆう}：明治時代の思想家) という格言があります。

荒尾にある資源を深く見つめなおしてみると、その奥にはこれらを支え、担ってきた先人たちの思いや知恵や技術、そして変わらない自然の営みがあります。

これからの地域の魅力づくりは、それらの価値をどれだけ「共鳴を生む物語」として編集することができるかが重要です。それは、地域の誇りの原点を辿る作業でもありません。過去へ辿りながら、未来へ向けて物語を紡ぎ出していくことが地域の活気を生み、住みたい荒尾になり、来訪者にとっても魅力ある荒尾になります。



今、時代は「機能」や「利便性」ではなく、「感動」を求めています。旅行の動機調査（序章P7）をみても、「未知のものにふれたくて」、「美しいものにふれるため」、「感動したい」という比率が増えています。

需要側である来訪者が荒尾の地に感動し、荒尾の魅力に共感するには、まず供給側である荒尾市民と深層の部分でつながりをもつことが重要です。

つまり、荒尾の資源の奥にある先人たちの物語や大切に受け継がれてきた想いに触れることで、荒尾の本物の価値に気づき、そこに感動や共感が生まれるのです。

このように「源を見つめなおす」というコンセプトによる取組は、荒尾市固有の観光地形成につながり、持続可能な観光交流を図ることができます。